

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00457

研究課題名(和文) Jack B. Yeats とヴァナキュラー文化：大衆娯楽文化の表象に関する研究

研究課題名(英文) Jack B. Yeats and Vernacular Culture: Representation of Popular Entertainment Cultural Activities

研究代表者

三木 菜緒美(服部菜緒美)(Miki, Naomi)

帝京大学・公私立大学の部局等・准教授

研究者番号：20461535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アイルランドの芸術家であり、作家である Jack B. Yeats (1871-1957) の様々な分野にわたる作品群に描かれたヴァナキュラー文化に焦点をあて、特にブロードサイド作品や絵画を対象とし、19世紀から20世紀前半のアイルランドの社会的・文化的コンテクストを踏まえ、その意義を考察・検証した。2年目以降(2020-22年度)においては、コロナ禍の影響により渡航が不可能となったため、研究調査が十分に行えず、その他のヴァナキュラー文化の意義の解明という目的達成には至っていないが、今後さらに現地での資料調査を行っていき、目的達成を目指したいと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

W. B. イェイツに関して多くの研究がなされているが、その弟ジャック・イェイツに関しては国内ではほとんど研究されていない。海外においては、彼の後期油彩画はよく研究されているが、多くのジャンルにわたる作品群を研究するものはかなり少ない。本研究は、そのようなジャック・イェイツ研究にヴァナキュラー文化研究という新たな視点を投じることができたと考えている。

またヴァナキュラー文化は、以前は論じるに値しないと考えられてきたが、そこに焦点を当てた研究が今様々な分野で盛んになっており、当たり前を疑うということは、私たちの生活の中でも重要な視点を投じるものであり、学術的・社会的に意義のあるものである。

研究成果の概要(英文)：This study focused on the vernacular culture depicted in the works of an Irish artist and writer Jack B. Yeats (1871-1957), particularly in his broadside works and paintings. It explored their significance in Ireland's social and cultural context in the 19th and early 20th centuries. Due to the COVID-19 pandemic in the second and subsequent years (AY2020-2022), it became impossible to conduct sufficient research as planned and to achieve the initial goal of elucidating the significance of other vernacular cultures. However, I will carry on the research and achieve the intended goal by conducting further field surveys and investigations.

研究分野：英語圏文化

キーワード：Jack B. Yeats アイルランド文化 ヴァナキュラー文化

1. 研究開始当初の背景

本研究において「ヴァナキュラー文化」とは、イングランドの労働者階級及びアイルランドの人々の生活に関連した文化で、19世紀から20世紀前半にかけて、これらの地域に発生し、展開・変容・拡散あるいは衰退していった文化を指す。具体的には、フェアと呼ばれる市場やミュージックホールあるいは演劇場で行われていた大衆芸能や娯楽、すなわち曲芸やクラウンショー・動物ショーなどを行っていたサーカス、ヘアナックルボクシングや競馬などのスポーツ、そしてバラッド・オペラやハーレクイン、クリスマス・パントマイム(別名ハーレクイネイド)などの風刺演劇、紙人形劇やマリオンネット劇のようなトイ・シアター、風刺漫画やバラッド文化等を指す。

Jack B. Yeats (1871-1957) は、アイルランドの画家として有名であるが、イラストやブロードサイド・バラッド、トイ・シアター、風刺漫画、水彩・油彩画、演劇、小説など様々なジャンルの作品を制作した多才な芸術家・作家であった。そしてこれらの作品群の中で、ジャック・イエイツは、ヴァナキュラー文化を繰り返しテーマとして扱っている。しかしながら、これら大衆娯楽文化に関連したテーマが、社会的文化現象やその歴史とともに論じられることはほとんどない。そこで、本研究は、彼の様々なジャンルの作品を対象とし、その中にヴァナキュラー文化がどのように表象されているか、学際的に考察してどのような意義を見出せるかを分析し、社会的文化現象やその歴史と照らし合わせ検証しようというものである。

2. 研究の目的

19世紀から20世紀前半にかけてのイングランドおよびアイルランドにおいて、ヴァナキュラー文化である大衆娯楽文化は、爆発的な流行と変容・融合・拡散あるいは衰退をまくるしい速さで展開していったが、ジャック・イエイツはジャンルの違う作品の中で、これら大衆の娯楽文化を繰り返しテーマとして扱っている。しかし、これら民衆の娯楽文化に関連したテーマにどのような意義が見出せるのか、ジャック・イエイツ作品における大衆娯楽文化の表象は何を意味しているのかという問題が、社会的文化現象やその歴史とともに論じられることはほとんどなかった。

そこで、本研究は、(1) 19世紀から20世紀前半の大衆娯楽文化、特にブロードサイド・バラッド文化、サーカス、トイ・シアター、風刺漫画に関して、様々な資料や記述から、その時代による変容や相互間の影響、融合・拡散の様子を分析し、時代の流れに沿ってまとめ整理すること、(2) ジャック・イエイツ作品及び資料を(1)と照らし合わせ、作品がどのように大衆娯楽文化を取り上げているかを分析し、社会的・文化的コンテクストと照らし合わせて、その意義を領域横断的に分析・検証することを目指す。

3. 研究の方法

当初は年に1度アイルランド国立美術館および国立図書館、あるいはニューヨーク公立図書館においてジャック・イエイツ関連資料を収集し、内容を調査する予定であった。しかしコロナ禍により初年度のみアイルランドでの調査を行えたが、その他の年度では不可能となった。

結果、初年度に収集したジャック・イエイツ作の11年分のブロードサイド・バラッドについては、ブロードサイド制作の背景、掲載された詩作品の作者や出所、イラストの詳細について整理し、分析調査することができた。しかし、2年目以降に予定していたサーカス、トイ・シアター、風刺漫画等についての現地調査ができなかった。そのため、2020年度からはネット上で入手できる資料収集及び調査に切り替え、絵画作品についての資料を読み、また劇作品や小説等の精読、さらにはジャック・イエイツが取り上げたヴァナキュラー文化に関連する新聞記事等の調査を進めた。

しかしながら、本来の目的である内容の調査は未だできておらず、今後の課題として研究継続する予定である。

4. 研究成果

まず、ジャック・イエイツ制作のブロードサイド作品は、これまで伝承歌や当時の流行歌、詩を寄せ集めて、イラスト付きで発行しただけのものとして、学術的にほとんど取り上げられることがなかった。本研究ではこれを対象とし、その制作背景や掲載作品、イラストについての調査

分析を行うことで、その意義を明らかにした。具体的には、彼の仕事が、1902年1月から1903年12月までの第1期、1908年6月から1915年5月までの第2期、そして兄であるW. B. イェイツが1935年と1937年に1年ずつ、F. R. ヒギンズやドロシー・ウェルズリーとともに共同編集者として出版した第3期、第4期に分けられると整理した上で、第1期においては、タロット・カードのイラストレーターとして有名なパミラ・コールマン・スミスとの共同作業で始まったこと、第2期においては、姉のエリザベス・イェイツ「ロリー」が設立したDun Emer Pressを出版社とし、当時のアイルランドにおけるアーツ・アンド・クラフト運動と連動した仕事であったこと、また世界的な伝承歌収集の流行の中で、ジャック・イェイツが伝統の担い手である労働者たちに焦点を当てようとしたこと、そして、彼らにとっては紙としてのブロードサイドそのものが、仲間と歌を共有し、かつ粗末であった家の中の装飾物として機能していたことを、ジャック・イェイツのブロードサイドが記録していることを明らかにした。

ここまでは、計画通り順調に研究を進めていたが、コロナ感染症の影響により、予定していた国外の現地調査が事実上不可能となり、予定変更を余儀なくされた。そこで手元にある資料及びオンラインで入手可能な資料でできる研究調査へと変更した。以下がその成果となる。

絵画作品について、特に当時のアイルランドの歴史的・政治的な事件に関連のある作品群を主に分析対象とした。これらの作品群については、歴史的・政治的な事件との関わりで解釈されることがほとんどであるが、一方で、テーマとは一見関係のない人物やものも描きこまれている。それは多くが社会的・経済的弱者の事件に対する反応であり、ジャック・イェイツが周辺に追いやられている人々にも焦点を当て、中心となる事件や出来事を描く一方、社会的・経済的弱者の生活を対比的に意図的に描きこんでいることを示した。

また、ブロードサイド制作時に、イングランドの詩人ジョン・メイスフィールドとの交友により、伝承歌収集ではあまり取り上げられることのない船乗りたちの労働歌であるシー・シャンティーを多く採用し、二人が海上の労働者とその歌をヴァナキュラー文化として大切にするという姿勢を共有していたこと、その文化を芸術として表現することに貢献したことを示した。

今後は、本来の目的であるトイ・シアターやサーカス、風刺漫画に関する調査を課題として、本研究を継続する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 三木菜緒美 | 4. 巻 39 |
| 2. 論文標題 Jack B. Yeats のブロードサイド・バラッド・プロジェクト：' A Broad Sheet ' と A Broadside | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 エール（アイルランド研究） | 6. 最初と最後の頁 48, 69 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Naomi Miki |
| 2. 発表標題 Jack B. Yeats: Response to Conflict in Art |
| 3. 学会等名 IASIL Japan the 37th International Conference（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 三木菜緒美 |
| 2. 発表標題 Jack B. Yeats のブロードサイド出版とイエイツ家 |
| 3. 学会等名 日本イエイツ協会 第55回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 三木菜緒美 |
| 2. 発表標題 バラッド文化の芸術表現－John Masefield と Jack B. Yeats |
| 3. 学会等名 日本バラッド協会 第14回会合 |
| 4. 発表年 2023年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|